

「虐待の予防、早期発見及び再発防止に向けた地域における連携体制の構築に関する研究」

分担研究報告書

育児不安・困難に関する研究

幼稚園児の母親へのアンケート調査

分担研究者 田野 稔郎(神奈川県立こども医療センター精神療育部長)

研究要旨：幼稚園在園児の母親を対象として、育児不安・困難に関するアンケート調査を行った。育児困難を訴える母親は対象全体の1.2%に認められた。母親が子どもの頃に自分の母親に悪い印象を持つ場合には育児不安・困難を感じていることが多い傾向が認められた。育児を円滑に進めるためには、子ども時代からの親子関係のあり方を考慮する必要があると考えられる。

共同研究者：

高橋雄一(神奈川県立こども医療センター精神科)

森田秀子(山口県立大学看護学部)

1. はじめに

これまで児童虐待予防につき母親の精神的な問題に焦点を当てて研究を行ってきた。特にハイリスク妊娠を対象として育児不安や育児困難について調査してきた。この中でより健康的な母親について育児不安・育児困難を調査することによって、より一般的な実状が明らかにされ、今後の対策を考えるために何らかの有用な情報が得られるのではないかと考えた。

2. 対象

幼稚園に在園する児童の母親を対象として自作のアンケート調査を行った。アンケート用紙は、お母さん方へのお願い1枚、アンケート本文4枚の、A4判5枚からなる。調査に協力を得られたのはA、B、C、D幼稚園である。アンケート用紙は封筒に入れて幼稚園を経由して保護者に配布し、記入後に封をした上で再び幼稚園を経由して回収した。対象とした4園の在籍者は513名、回収出来たのは331通(64.5%)であった。その他母親の年齢、子どもの年齢、などは表に示す通りである。

母親の平均年齢は約35歳、子どもの平均年齢は約5歳7カ月である。それぞれの年齢分布は表に示す通りである。

なお1名は調査用紙のはじめの1枚程度の記入しかなかったため、全体の集計からは除外した。

表1 幼稚園在園者数・回収数

	在園者数	回収数	回収率%
A幼稚園	120	43	35.8
B幼稚園	115	62	53.9
C幼稚園	131	94	71.8
D幼稚園	147	132	89.8
合計	513	331	av 64.5

表2 母親年齢内訳

母年齢	人数(名)	割合(%)
25歳以下	3	0.9
26～30歳	27	8.1
31～35歳	134	40.5
36～40歳	92	28.1
41～45歳	31	9.4
46歳	2	0.6
記入なし	41	12.4
合計	330	100.0

母年齢平均：35.1歳

3. アンケートの内容

アンケート内容全てを示すことは難しいが、その大略は次の通りである；子どもの年齢、妊娠経過、分娩経過、家族構成、就業状況、妊娠を知った時の印象、妊娠中の気持ちの変化、子どもが生まれたばかりの時と現在の育児の感じ、産後に見られた気分・体調の変化、子どもの頃と現在の両親に対する印象、自由意見、その他。

4. 結果

まず第一にアンケートの設問の一部とその結果

表3 子ども年齢内訳

子ども年齢	人数(名)	割合(%)
2	1	0.3
3	35	10.6
4	119	35.9
5	124	37.5
6	44	13.3
記入なし	8	2.4
合計	331	100.0

子ども年齢平均：3.55歳

を示すこととしたい。

1)設問；このお子さんの妊娠経過はどうでしたか

順調であったもの246名(74.6%)、順調でなかったもの79名(23.9%)、記入なし5名(1.5%)であった。順調でなかったものの内訳は、出血があった36件、気分が落ち込む11件、疲れやすい11件、その他35件であった。このうち入院して治療を受けたもの13名、外来治療を受けたもの59名であった。

2)設問；このお子さんを妊娠していることを知って、どのように感じましたか

妊娠を知った時の印象はとても嬉しかったと嬉しかったを合わせると92.2%と圧倒的に多いが、わずかながら少し困った・困った・とても困ったと感じているものが26名(7.8%)あった。

表4 妊娠を知った時の印象

妊娠を知った時の印象	人数	割合%
1)とても嬉しかった	228	68.9
2)嬉しかった	77	23.3
3)少し困った	22	6.6
4)困った	2	0.6
5)とても困った	1	0.3
記入なし	1	0.3
合計	331	100.0

3)設問；このお子さんの妊娠で次の項目のうちあてはまるものを選んで印をつけてください

表5に示すような項目を提示して該当する項目を選ぶようにした。予定通りの妊娠と希望した妊娠とを合わせると70%を越えるが、他に予定より早い妊娠で意外が17%見られた。妊娠を恐れたり(3.8%)、望まない妊娠(1.3%)も割合は少ないが認められた。

表5 妊娠で該当する項目

	件数	割合%
1)予定通りの妊娠で満足である	81	21.8
2)希望した妊娠で満足している	183	49.6
3)月経停止で妊娠を恐れた	14	3.8
4)予定より早い妊娠で意外	63	17.0
5)望まない妊娠で不安	5	1.3
6)その他	23	6.2
記入なし	1	0.3
合計	370	100.0

4)設問；妊娠経過中の気持ちの変化がありましたか

妊娠中に気持ちの変化があったか否かを質問した。気持ちの変化なし213名(64.4%)、気持ちの変化あり67名(20.2%)、どちらとも言えないとわからないが併せて50名(15.1%)であった。

変化の内容は；いらいらする14名、気分が落ち込む25名、憂うつ11名、気分が落ち着かない4名、怒りっぽい11名、夜眠れない10名、その他25名であった。

5)設問；このお子さんが生まれたばかりの時にあなたは育児をどのように感じていましたか

現在はお子さんの育児をどのように感じていますか

とても楽しいから普通までが出生直後では285件(82.1%)、現在は321件(94.7%)で圧倒的な割合を占める。それに対して負担に思うと誰かに育ててもらいたい併せて出生直後22件(6.3%)、現在は3件(0.9%)であった。楽しいや普通は出生直後と現在との間に大差がない。一方、負担に思うや誰かに育ててもらいたい著しく減少が見られる。時間の経過とともに、次第に受け入れられるようになるためであろう(表6)。

また、時にいやになるがまあ楽しいは出生直後では32.3%、現在は31.1%を示し、かなり多かった。これは母親の素直な気持ちの現れと言えよう。

6)設問；このお子さんのお産の後から現在までに気分や体調の変化見られましたか

産後の気分体調に変化が見られたか否かをたずねた。その概略は表7、表8に示す。

気分体調変化があったものは135名で全体の40%であった。その内容は情緒面では疲れやすい、怒りっぽい、いらいらする、物忘れするの順で多く、身体面では痛みと月経異常が多かった。

表6 生直後・現在の育児感(重複あり)

	生直後	現在
1)とても楽しい	81件	84件
2)楽しい	76	118
3)時にいやになるがまあ楽しい	107	103
4)普通	21	16
5)負担に思う	17	3
6)誰かに育ててもらいたい	5	0
7)その他	36	14
記入なし	4	1
合計	347	339

この設問では気分と体調を併せて聞いているので比較は難しいが、妊娠中の気分の変化が20%であるのと比べると、出産後に気分体調の変化起きやすい傾向があると言える。

7)設問；あなたが日常の育児で感じていることについて当てはまるものに印をつけてください(印はいくつでも可)

ここでは17項目を挙げてその中から該当するものに印をつけることとした。表9にその項目と選ばれた数を示した。

幸せに思う77.3%、楽しい72.5%、あきない34.5%、つらいと思わない20.5%、何でもしてあげたい20.2%が多い。しかしいらいらさせられる42.6%、怒鳴る26.9%、子どもに当たる19.6%、子どもをぶつ10%、育児はつらい7.9%などもかなり高い割合を示している。これは育児を「時にいやになるがまあ楽しい」と答えたものが1/3になろうとしていることと関連しているのであろう。

8)設問；あなた自身は子どものころ(小学生・中学生ころまで)あなたのご両親にどのような印象をお持ちでしたか 子どもの頃を振り返って印象をお聞かせ下さい
(印はいくつでも可)

これに合わせて両親に対する現在の印象についても設問を設けたが、今回の報告では省略する。

両親に対する子ども時代の印象は、ポジティブなものが圧倒的に多かった。しかし「厳しい」と感じているものが、父に対しては114件(34.4%)、母に対しては135件(40.8%)認められたことは、予想外であった。しかし現在も「厳しい」と感じているものは10%程度に減少している。一方両親に対するネガティブな感情を持つものがある。両親に

表7 気分体調変化の有無

	人数	割合%
1)気分体調とも変わらない	194	58.6
2)気分体調が変わった	135	40.8
記入なし	1	0.6
	330	100.0

表8 産後気分体調変化の詳細

気分体調変化内容	件数	割合%
a.疲れやすい	71	52.6
b.いらいらする	28	20.7
c.気分がすぐれない	14	10.4
d.憂うつ	15	11.1
e.元気が出ない	15	11.1
f.自信がない	21	15.6
g.根気がない	4	3.0
h.外出しない	7	5.2
i.物事に集中できない	16	11.9
j.怒りっぽい	32	23.7
k.まわりの事が気になる	11	8.1
l.同じ事ばかり考える	8	5.9
m.物忘れする	27	20.0
n.夜眠れない	14	10.4
o.微熱	4	3.0
p.朝起きにくい	8	5.9
q.食欲がない	5	3.7
r.月経異常	10	7.4
s.性器出血	1	0.7
t.痛みがある	29	21.5
u.高血圧	1	0.7
v.蛋白尿	2	1.5
x.その他	42	31.1
合計	385	285.2

(割合は135名に対する%を示す)

対して「冷たい」「恐ろしかった」「あまり世話されなかった」が少数ながら認められている。ここで留意しておくべきことは、あくまでも本人の主観的な印象であって、客観的な事実とは必ずしも一致しない事である。しかしこの主観的な印象がきわめて貴重かつ重要な所見と考えられる。子ども時代に母の印象が「冷たい」3名、「相手にされなかった」3名、「恐ろしかった」9名、「世話された思いがない」12名に見られた。これらを詳しく見ると、育児に対してポジティブな面とネガティブな面と両面を示しており、複雑な心理を表しているように思われる。

表9 日常育児の感じ

設問の項目詳細	件数	割合%
1)子供といると楽しい	240	72.5
2)子供といるとあきない	115	34.5
3)よくあやしている	29	8.8
4)幸せに思う	256	77.3
5)つらいと思わない	68	20.5
6)いらいらさせられる	141	42.6
7)育てにくい	19	5.7
8)泣くのが気になる	24	7.3
9)育児はつらい	26	7.9
10)泣きたい気分	14	4.2
11)泣いてしまう	4	1.2
12)子供に当たる	65	19.6
13)何でもしてあげたい	67	20.2
14)子供をぶつ	33	10.0
15)近所のことが気になる	14	4.2
16)つねる	3	0.9
17)怒鳴る	89	26.9
18)その他	29	8.8
合計	1236	373.4

表10 子ども時代の両親の印象(件数)

設問項目内容	父	母
a.可愛がられた	202	177
b.理解された	59	110
c.優しかった	143	158
d.甘やかされた	46	31
e.冷たかった	3	3
f.恐ろしかった	16	9
g.厳しかった	114	135
h.相手にされなかった	10	3
i.よく世話された	56	121
j.普通に世話された	79	71
k.あまり世話されなかった	0	12
l.父(母)に特別な思いはない	15	7
m.父(母)の記憶はない	5	1
n.その他	13	16

9)各項目間の分析

今回は子ども時代の母親に対する印象を中心としていくつかの項目についてクロスして検討を試みた。母親に対する印象の内容は表11に示す通りである。あわせて14項目になるが、これらを4段階に分類し、それぞれに+1~-2の点を与え、各人について集計した。分散が-4~+6であったので、-2以下を-2とし、+2以上を+2として0を含む+2~-2の

5段階とし、それぞれを+2を「良い」グループ、+1を「やや良い」グループ、0を「どちらとも言えない」グループ、-1を「やや悪い」グループ、-2を「悪い」グループと名付けて以下の分析を行った。

表11 子ども時代の母印象項目

項目		
+2点	可愛がられた	理解された
	優しい	よく世話された
+1点	普通に世話された	特別な思いはない
-1点	あまり世話されなかった	厳しい
-2点	冷たい	恐ろしかった
	相手にされなかった	

(記憶がない、甘やかされた、その他の3項目は採点から除いた)

妊娠中の相談相手を見ると「良い」グループでは夫>実母>知人の順であるが、「悪い」グループでは実母に相談する割合が少なく、知人>夫>実母の順であった。

妊娠中の気持ちの変化は、「悪い」グループではいらいらする、気分が落ち込む、憂うつ、が他のグループに比して多かった。

産後気分体調変化があったものでは「良い」グループでは変化内容は少数だが万遍なく分布し、「悪い」グループでは疲れやすい、憂うつ、いらいらする、集中できないが多く見られた。

日常の育児をどのように感じているかという設問に対する回答をみると、「悪い」グループでは幸せと感じている割合は他のグループよりも高率であるが、一方では子どもに当たる、子どもをぶつが多く見られる。自分の拒否的な感情を無意識的に修正していることが考えられる。

「悪い」グループを見ると、出生直後では育児をととても楽しいと感じていたものは皆無であり、育児が負担である、誰かに育ててもらいたい但他的グループに比して目立っている。時が経つにつれて子どもを受け入れが改善されるようである。

10)自由意見について

今回のアンケートには最後に自由意見欄を設けた。ここに記入したのは、92名(27.8%)であった。この内容は多岐に亘る。家族について、育児について、子どもについて、社会資源についてなどが主な内容である。その詳細は別に報告したい。この自由意見欄に育児不安・困難を記入していた

ものを取り上げて考察してみた。

これらは合わせて7例であった。その割合は回収数の2.1%、在籍数の1.4%に相当する。これは一般の人口についても、育児不安・困難を感じ、悩んでいる母親は決して少なくないことを示唆しており、何らかの対策が必要となろう。その内容を見ると、妊娠中の気分変化は5名に認められ、その内容は気分の落ち込み3、いらいら・落ち着かない各1であった。産後の気分体調変化は5名に見られ4名は現在まで続いている。その内容は疲れやすい5、怒りっぽい・いらいら各3、集中できない2、不眠・自信がない・物忘れなどであった。日常の育児をどのように感じているかを見ると、幸せ5、楽しい3、とする一方でいらいらする・ぶつ・怒鳴る各6、子どもに当たる5、育てにくい3、泣くのが気になる・辛い・泣きたい気分各2、つねる1など育児がスムーズに進んでいない事がうかがわれる。

5.まとめ

幼稚園在園児の母親にアンケート調査を行なった。対象の約65%に当たる331名から回答を得た。

妊娠中または、産後に気分体調に変化が見られたものはそれぞれ20.2%、40.8%であり、かなりのものが変調を来している。

大多数の母親は、妊娠・出産・育児を受け入れて楽しい・あきない・幸せと感じているが、少数ながら現実を受け入れられず精神的に不安定になったり、育児困難に陥るものがある。このよう母は、自分の子ども時代に実母との関係が良くない。

また自由意見に育児困難を記載したものに簡単な考察を加えた。その数は7名(回答者の2.1%、在籍者の1.4%)であった。これらの母親に対する対策を講じることが予防につながると考えられる。